

令和5年度(2023年度) 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園さつなえのもり

(1)「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

【A】→14名(35%) 【B】→25名(64%) 【C】→1名(1%)

1～3期を通して、検討したことを振り返りながら改善しようとする思いや発展していく様子が4期において職員全体に見られたことは評価したい。また常に子どもたちを中心とした保育を計画する様子が見られ、子どもたちにとって準備された保育ではなく、したいこと表現したいことを存分に表すことのできた1年になったと思う。

(2)「保育の在り方、乳児への対応」についての評価結果及び改善策

【A】→9名(23%) 【B】→29名(74%) 【C】→3名(3%)

「言葉の手渡し」「信じて待つ」を折に触れて主任から、またはリーダーから個人の職員に向けて伝えることがあった。自分たちの保育で大切にしていきたい事をそれぞれ伝えたいという思いがあり、じっくりと話し合ったことで少しずつ改善していく様子が見られた。声の大きさ、手のかけるタイミングは時折自分本位になる姿が見られ、引き続き伝えていきたい。

(3)「研修と研究」についての評価結果及び改善策

【A】→11名(28%) 【B】→27名(69%) 【C】→3名(3%)

オンラインで受講できるものが増え、様々な職員が研修を受けることができた。特に「重大事故を防ぐ園環境について」の研修では、日々の保育の中に「ヒヤリハット」があること、それに気付く視点が大切であることなど各々が感じ取り、知識・意識につながったことは大きい。また担任交換はお互いの保育を知るだけでなく、自分たちの保育で大切にしていることの振り返りとなっていた。研修を積極的に受けようとする職員とそうでない職員がいるため、今後の学びにつながるようアプローチをしていきたい。

(4)「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

【A】→8名(20%) 【B】→28名(71%) 【C】→5名(9%)

それぞれが自クラスの保護者だけでなく、他クラスへの保護者にも積極的に関わる姿が見られた。また保護者に寄り添う、という思いが少しずつ職員間で根付いており、より保護者との信頼関係につながったのではと感じた。4月からは新たに入園してくる家庭もあるため、同じ思いで関わっていけるよう見守っていきたい。

(5)「自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

【A】→7名(18%) 【B】→31名(79%) 【C】→2名(3%)

冬の園庭で遊ぶ中でどんな仕掛けをするか、またどんな遊具があると広がるかなど想定しきれていないことがあり、それぞれのクラスで雪遊びが発展しない時期があった。冬ならではの遊びを各クラス話し合う時間がとれるようになり年明けにはどの子どもそれぞれ好きな遊びをじっくり楽しむ姿が見られるようになった。全体的に進級を楽しみにする様子が見られた。

自己評価 【A】 目標達成できた 【B】 達成した 【C】 更なる努力が必要